

ashitamobility (アシタモビリティ) 中間報告

本WTでこれまでに行われた議論における主なキーワードは以下の通り。

【地域の観点】

○「生活必需品としてのモビリティ」

- ・公共交通機関が少ない地方部では、自分用の移動手段は必要不可欠な生活必需品。一家で複数台所有も珍しくない。
- ・将来、完全な自動運転が実現すれば、高齢者や身体障がい者等にとって、より便利な移動手段となる。また、自動運転に至る過程の段階においても、自動停止機能などにより、運転者の負担を減らすことが期待できる。

○「ラストワンマイル」

- ・自動車を所有しない人が増えていく中、ラストワンマイルを埋めるための手段の重要性が高まる。
- ・超小型モビリティの開発が進んでいるところだが、公共交通と組み合わせること等により、ラストワンマイルを補う手段として今後重要性が増すことも考えられる。
- ・特に都市部においては、自転車等のシェアリングの可能性が模索されている。将来的にはCtoCのサービスへの発展可能性もあるが、地域によっては、まちづくりの観点から公的主体が主導で行うことも考えられる。
- ・乗用車やバス等に自転車や車いすを容易に積み込み移動する。例えば、自転車を所有している都市部の住民を郊外に出していくなど、新たな移動ニーズにつながり、地域活性化につながる可能性がある。

○「クルマに対するワクワク感」

- ・デザインでもテクノロジーでも、作り手が面白いと思えることがワクワクにつながるのではないかと、男性以外の視点など従来はターゲットとしてこなかった層に着目することも良いのではないかと様々な意見があった。

【国際的な競争力を視野に入れたものづくりの観点】

○「ITとクルマ」

- ・これからますます、クルマは「MUSTissue」ではなく、「IoT の一つ」になる。Android 等を車に搭載することで、膨大な情報を管理できるようになる。これをユーザーに還元すれば、様々なことに役立つ可能性がある。例えば、ワイパーの稼働情報から降雨状況、スピードやブレーキ情報から渋滞状況や道路危険度がわかるなど。

○「いじれる自由があるクルマ」

- ・コンピュータはいじることができることが前提で作られており、その文化がスマホ等にも引き継がれている。自動車は、他の人がいじれないようになっている。もっといじることができるクルマを造り、また情報をオープンにするべき。将来、Android 等を車に搭載し、クルマもオンラインで最新情報にアップデートできるようになるかもしれない。